

特集：耳道の腫瘍

JARMeCの
検査法と治療について

日本動物高度医療センター(皮膚科) 獣医師 滝澤 靖子

治り難い、もしくは再発を繰り返す外耳炎 / 中耳炎にはご注意を！

耳道の疾患はかなり多い

耳道(耳の中)の疾患は、特に犬に多く、動物病院に通院している犬の約10%が耳に関連する疾患を患っているとのデータがあります。日本動物高度医療センター(JARMeC)のような二次診療(ホームドクターからの紹介で診療を行う)特化の病院でも、皮膚科症例の約15%が耳道に関する疾患です。さらに、その半数が耳道内の「炎症性ポリープなどの非腫瘍性増殖物」または「腫瘍」、つまり腫瘍(はれもの、こぶ)です。

耳道内の腫瘍

「炎症性ポリープ」および「腫瘍」の概要および症状は下記の通りです。

	炎症性ポリープ	腫瘍
概要	<ul style="list-style-type: none">◆鼻咽頭の粘膜上皮や中耳、あるいは耳道から発生した非腫瘍性(良性)の腫瘍◆発生部位は、中耳・水平耳道の鼓膜付近◆若い猫に多くみられる	<ul style="list-style-type: none">◆良性腫瘍：乳頭腫、基底細胞腫、耳垢腺腫、皮脂腺腫など◆悪性腫瘍：耳垢腺癌、扁平上皮癌など◆犬の場合は良性が多い
症状	<ul style="list-style-type: none">◆耳の悪臭、膿性の耳垢◆痒痒および疼痛◆眼振、斜頸、旋回、ホルネル症候群、前庭疾患などの神経症状◆耳管を通して鼻咽頭に達した場合：鼻汁の排出、嚥下困難、喘鳴、咳	<ul style="list-style-type: none">◆耳の悪臭、膿性の耳垢◆痒痒および疼痛◆眼振、斜頸、旋回、ホルネル症候群、前庭疾患などの神経症状 <p>炎症性ポリープとほぼ同じ</p>

外耳炎 / 中耳炎と類似、発見が困難な場合も

耳道内に腫瘍が存在する場合でも、症状は外耳炎 / 中耳炎と類似しており、なかなか治らないのが特徴です。また腫瘍が中耳などの耳の奥に存在する場合、耳鏡によって耳道内を観察しても確認できない場合があります。



外耳炎 / 中耳炎？
耳鏡では確認が困難

治りづらい
確認が難しい

腫瘍？

早期に適切な検査を行う必要がある！

JARMeCの検査法と治療について

JARMeCの皮膚科では、硬性内視鏡、CT(コンピューター断層撮影; Computed Tomography)、MRI(磁気共鳴画像法; Magnetic Resonance Imaging)といった高度医療機器を活用して、精度の高い検査を行い、「外科的療法」や「放射線治療」の中から、最適な治療法を選択します。

検査

- ◆耳道専用の内視鏡を用いることで、耳道内の奥まで詳しく観察します。また、必要に応じ、耳道内を観察しながらの異物の除去や洗浄を行います。
- ◆腫瘍が認められた時は、専用の鉗子を用いて生検を行い、病理組織学的検査を行います。



硬性内視鏡

炎症性ポリープ

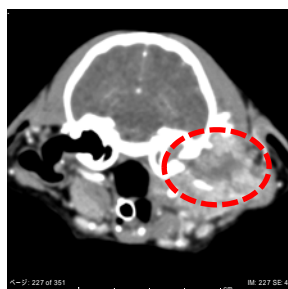
検査

- ◆頭部のCTまたはMRI検査を行い、中耳(鼓室胞)、内耳への炎症の波及、腫瘍の有無や周辺組織への波及の程度を把握します。



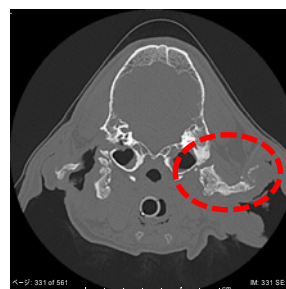
CT

MRI



扁平上皮癌
(猫)

CT画像



耳垢腺癌
(犬)

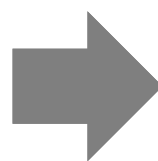
CT画像

治療 外科的療法 (手術)の場合

- ◆上記の検査結果をもとに、手術の術式を選択します。術式には、腫瘍の単純切除、垂直耳道側壁切除術、垂直耳道切除術、全耳道切除および側方鼓室胞切開術、鼓室胞腹側切開術などがあります。
- ◆耳の周囲には、顔面神経をはじめ様々な神経、血管の走行が見られるため、耳道の手術には十分な配慮が必要です。合併症などを最小限に抑えるべく、皮膚科と外科、腫瘍科が連携しながら手術を実施します。



耳垢腺癌
(手術前)



全耳道切除および側方鼓室胞切除術
(手術後)

治療 放射線治療 の場合

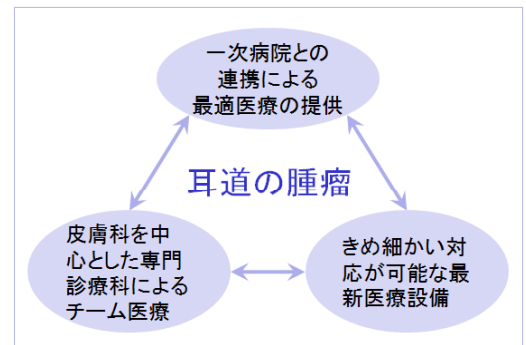
- ◆腫瘍が悪性の場合、手術後または手術が不可能な患者に対しては、根治的または緩和的な放射線治療を行い、再発の予防、QOL(生活の質; Quality of Life)の改善を行います。



放射線治療の様子

JARMeCの耳道の腫瘍治療の特徴

- I. 一次病院(ホームドクター)と連携をはかり、最適医療の提供および治療後のケアを支援します。
- II. 皮膚科を中心に、腫瘍科/放射線科/外科/麻酔科などの専門診療科が院内連携を取り、チーム医療で検査および治療にあたります。
- III. きめ細かい検査/手術を行うために必要な、最新の医療設備が充実しています。



治療費の目安

- ◆ 硬性内視鏡を使用した検査は1~3万円程度、CT・MRI検査は10~15万円程度が目安となります。
- ◆ 手術費用は術式によって異なり、10~50万円(術前検査、麻酔、手術、入院料など含む)が目安となります。
- ◆ 放射線治療はおよそ1ヶ月間の治療で80万円程度(麻酔前検査、麻酔、手術、入院料など含む)が目安です。
 - ✓ 動物の状態により、検査項目や手術難易度などが異なります。そのため、上記料金はあくまで目安としてご理解ください。
 - ✓ 合併症など他の疾病の治療が発生した場合も料金変動することがありますので、ご了承のほどお願いします。
 - ✓ 放射線治療の詳細については、放射線科のホームページをご覧ください。

ホームドクター/連携病院の皆様へのお願い

- ◆ 難治性、または再発を繰り返す外耳炎/中耳炎が見られた時は、耳道内の腫瘍または腫瘍の可能性があります。飼主さまとご相談の上、ぜひ当センターの皮膚科にご紹介いただければ幸いです。

日本動物高度医療センター 皮膚科 滝澤 靖子(たきざわ やすこ)



埼玉県北本市出身
日本獣医生命科学大学獣医学部卒 医学博士

専門分野は「遺伝性皮膚疾患」「スキンケア」

JARMeCの皮膚科では、的確な診断を行い、ステロイド剤をなるべく使用しない、エビデンスに基づいた最適治療を行っていくことを目標としています。

今後は、美容/予防にも力を入れていきます。

本資料は予告なく変更される場合がございます。ご了承ください。